

(2) がんの早期発見

めざす姿

《最終目標》 ～患者のあるべき姿～

県民が、がんの早期発見やがん検診受診の必要性を認識し、質の高いがん検診を受診できている。

目標	評価指標		現状値 (基準値)	目標
	指標	出典		
がんが早期の段階で発見されている	がん検診における早期がんの割合	市町村がん検診結果報告	胃 44.2% 大腸 39.1% 肺 27.3% 乳 48.1% 子宮 21.1% (H27)	増加
がんが早期の段階で診断されている	がん登録における早期がんの割合	がん登録	胃 57.7% 大腸 40.2% 肺 32.9% 乳 60.6% 子宮 42.2% (H25)	増加

《中間目標》 ～最終目標達成のために必要な体制整備～

最終目標を達成するため、県民にがんの早期発見やがん検診の必要性について周知がなされ、質の高いがん検診が受診しやすい体制整備ができています。

目標	評価指標		現状値 (基準値)	目標
	指標	出典		
がん検診を受けやすい体制整備ができています	がん検診受診率	国民生活基礎調査	がん種別に算出 (図1-16参照) (H28)	50%
精度の高いがん検診が実施できている	要精検率 精検受診率 陽性反応適中度 がん発見率 精検未把握率 精検未受診率	市町村がん検診結果報告 (逐年報告)	プロセス指標 (表1-4参照) (H27)	国(目標値) (表1-4参照)
石綿ばく露健康管理の試行調査の体制整備ができています	石綿ばく露による健康不安を持つ人の割合	石綿健康被害等に関するアンケート調査	87.1% (H28)	減少

個別施策

～目標達成のために取り組むこと～

1 がん検診の受診促進

- ①「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の開催
- ②企業と連携した(奈良県がん検診応援団)がん検診受診啓発
- ③がん検診受診勧奨を推進するための人材育成
- ④市町村の受診率向上に向けた取組支援
- ⑤協会けんぽと連携したがん検診の推進
- ⑥県民だより、健康だより、インターネット、(県ホームページ・SNS等)を活用した情報発信

2 がん検診精度管理の充実

- ①がん検診従事者の資質向上のための研修会の継続
- ②がん検診精度管理調査の実施・公表・指導

3 石綿の健康影響に対する対策の推進

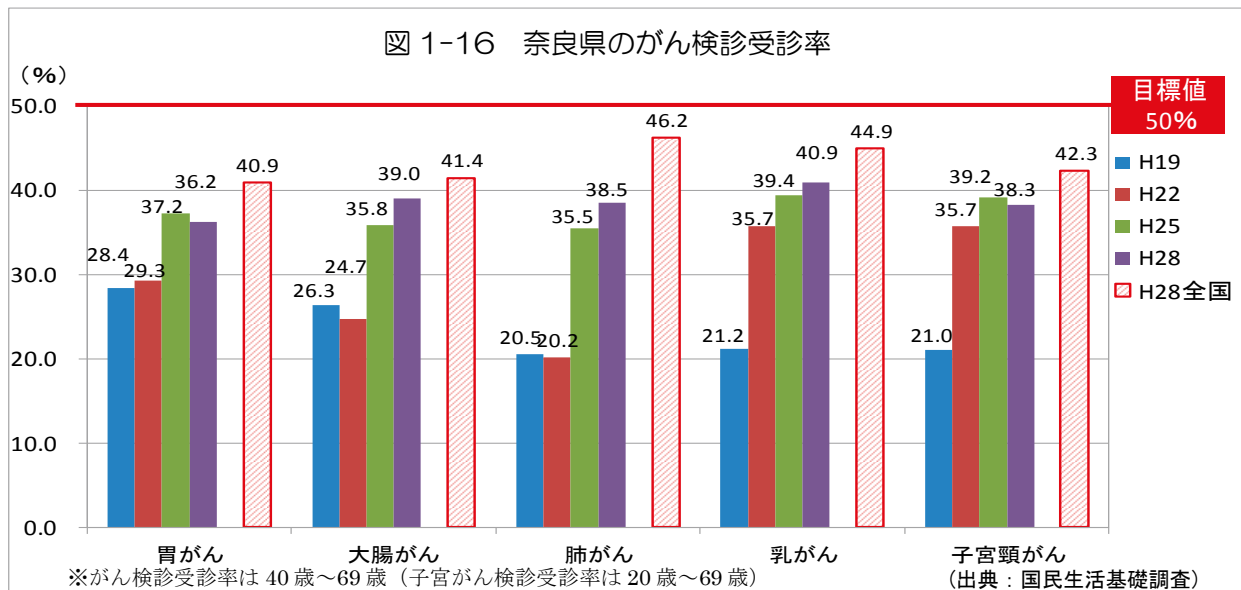
- ①石綿ばく露者の健康管理の充実

現状と課題

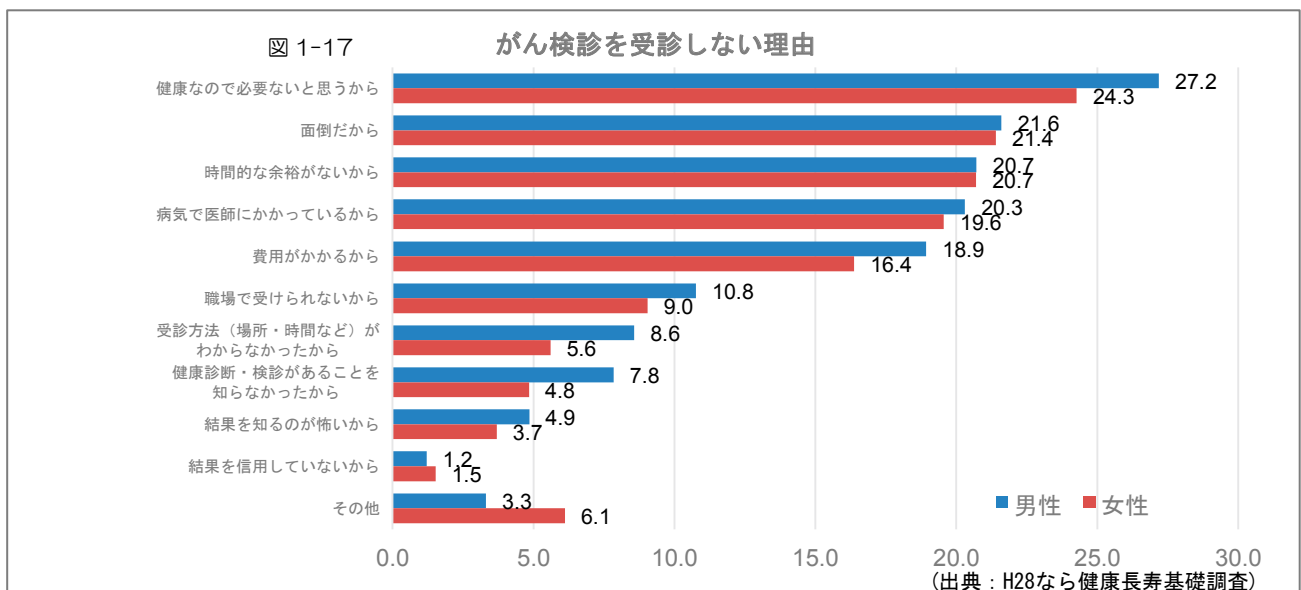
がんの死亡者を減少させるためには、県民が利用しやすい検診体制の構築や精度管理がなされたがん検診を提供し、がんの早期発見・早期治療（２次予防）の促進を図ることが重要です。

◆がん検診の受診について

- 平成 28 年のがん検診受診率は、胃がん 36.2%、大腸がん 39.0%、肺がん 38.5%、乳がん 40.9%、子宮頸がん 38.3%、とすべてのがん検診において、全国平均を下回っています（図 1-16）。



- がん検診を受診しない主な理由は図 1-17 のとおりです。その他の理由として、20～50 歳代では「費用がかかるから」、60 歳代では「病気で医師にかかっているから」という回答が多くなっています。
- これらのことから、県民にがん検診受診の重要性や正しい知識が十分に周知できていないことが考えられます。県民に分かりやすいがん検診の情報発信と、受診しやすいがん検診に向けて体制の整備が必要です。



◆がん検診の精度管理について

- ・各がん検診のプロセス指標値は、国が示す許容値は満たしていますが、目標値を満たしていない指標が多く見られます。また、市町村別にみると、要精検率や精検受診率に差がある状況です。全てのプロセス指標において、目標値を満たすよう精度管理を徹底する取組が重要です。

表 1-4 平成 27 年度プロセス指標

胃がん（40～74 歳）						
	要精検率	精 検 受診率	精 検 未受診率	精 検 未把握率	がん発見率	陽性反応 適中度
奈良県	4.3	85.3	8.8	5.9	0.16	3.81
国（許容値）	11.1%以下	70%以上	20%以下	10%以下	0.11%以上	1.0%以上
国（目標値）	—	90%以上	5%以下	5%以下	—	—
大腸がん（40～74 歳）						
	要精検率	精 検 受診率	精 検 未受診率	精 検 未把握率	がん発見率	陽性反応 適中度
奈良県	5.9	74.7	17.3	8.0	0.30	5.09
国（許容値）	7.0%以下	70%以上	20%以下	10%以下	0.13%以上	1.9%以上
国（目標値）	—	90%以上	5%以下	5%以下	—	—
肺がん（40～74 歳）						
	要精検率	精 検 受診率	精 検 未受診率	精 検 未把握率	がん発見率	陽性反応 適中度
奈良県	1.4	89.8	5.9	4.3	0.03	2.49
国（許容値）	3.0%以下	70%以上	20%以下	10%以下	0.03%以上	1.3%以上
国（目標値）	—	90%以上	5%以下	5%以下	—	—
乳がん（40～74 歳）						
	要精検率	精 検 受診率	精 検 未受診率	精 検 未把握率	がん発見率	陽性反応 適中度
奈良県	9.0	94.6	4.0	1.4	0.42	4.60
国（許容値）	11.0%以下	80%以上	10%以下	10%以下	0.23%以上	2.5%以上
国（目標値）	—	90%以上	5%以下	5%以下	—	—
子宮頸がん（20～74 歳）						
	要精検率	精 検 受診率	精 検 未受診率	精 検 未把握率	がん発見率	陽性反応 適中度
奈良県	1.5	81.8	11.5	6.8	0.05	3.47
国（許容値）	1.4%以下	70%以上	20%以下	10%以下	0.05%以上	4.0%以上
国（目標値）	—	90%以上	5%以下	5%以下	—	—

- ・市町村の「事業評価のためのチェックリスト調査」の結果（図 1-18）をみると、各がん検診チェックリスト全項目における実施率は、集団・個別ともに、全国平均を上回っています。しかし、チェックリスト項目毎にみると、表 1-5 の項目については、実施している市町村数が少なく、重点的に取り組みが必要です。

- ・国は、市町村がん検診を「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成 20 年 3 月 31 日付け健発第 0331058 号厚生労働省健康局長通知別添）に基づいて実施するよう示しています。平成 28 年度の市町村におけるがん検診の実施状況調査集計結果によれば、指針に定められていないがん種に対する検診を実施している市町村が 62.5%となっています。また、検診対象年齢の変更や隔年受診にしていないなどの指針外の内容の検診を実施している市町村が約半数あります。指針に沿わない検診は、検診を受けることに寄る合併症や過剰診断等の不利益が利益を上回り、死亡率減少効果も明確でないため科学的根拠に基づく指針に沿った検診が提供できるよう精度管理を徹底します。

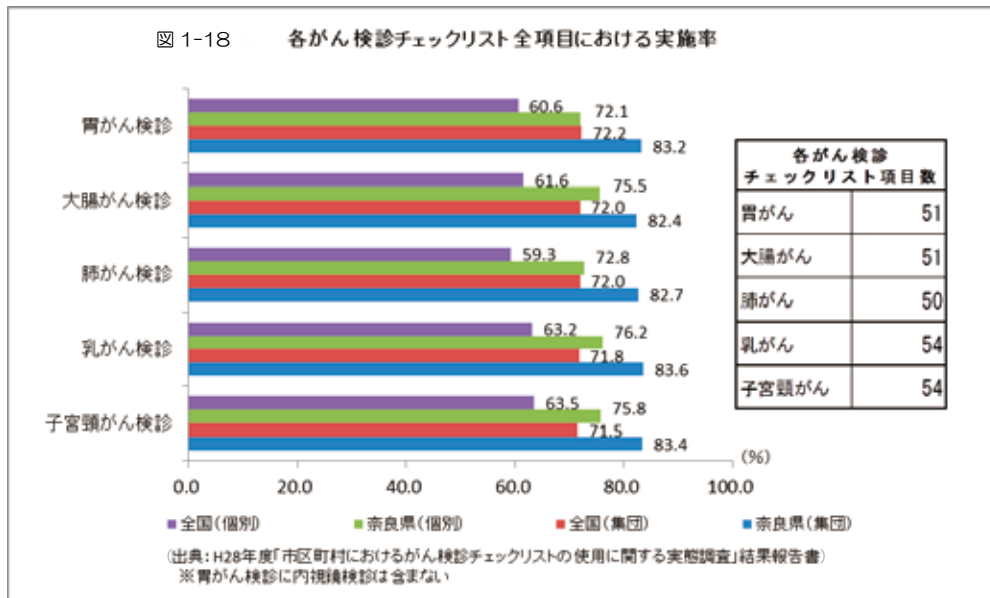


表 1-5 事業評価のためのチェックリストより抜粋

チェック項目	市町村実施率 (%)
対象者全員に、個別に受診勧奨を行いましたか	12.5～30.4
受診勧奨時に、受診者への説明資料（必要とされる6項目全て記載）を全員に配布しましたか	14.6～17.9
検診終了後に、委託先検診機関（医療機関）で仕様書（もしくは実施要綱）の内容が遵守されたことを確認しましたか	0～16.7
検診機関（医療機関）に精度管理評価を個別にフィードバックしましたか	4.3～10.4
「検診機関用チェックリスト」の遵守状況をフィードバックしましたか	0～4.4
検診機関（医療機関）毎のプロセス指標値を集計してフィードバックしましたか	0～4.7
上記の結果をふまえ、課題のある検診機関（医療機関）に改善策をフィードバックしましたか	0～5.1

◆石綿の健康影響に対する対策について

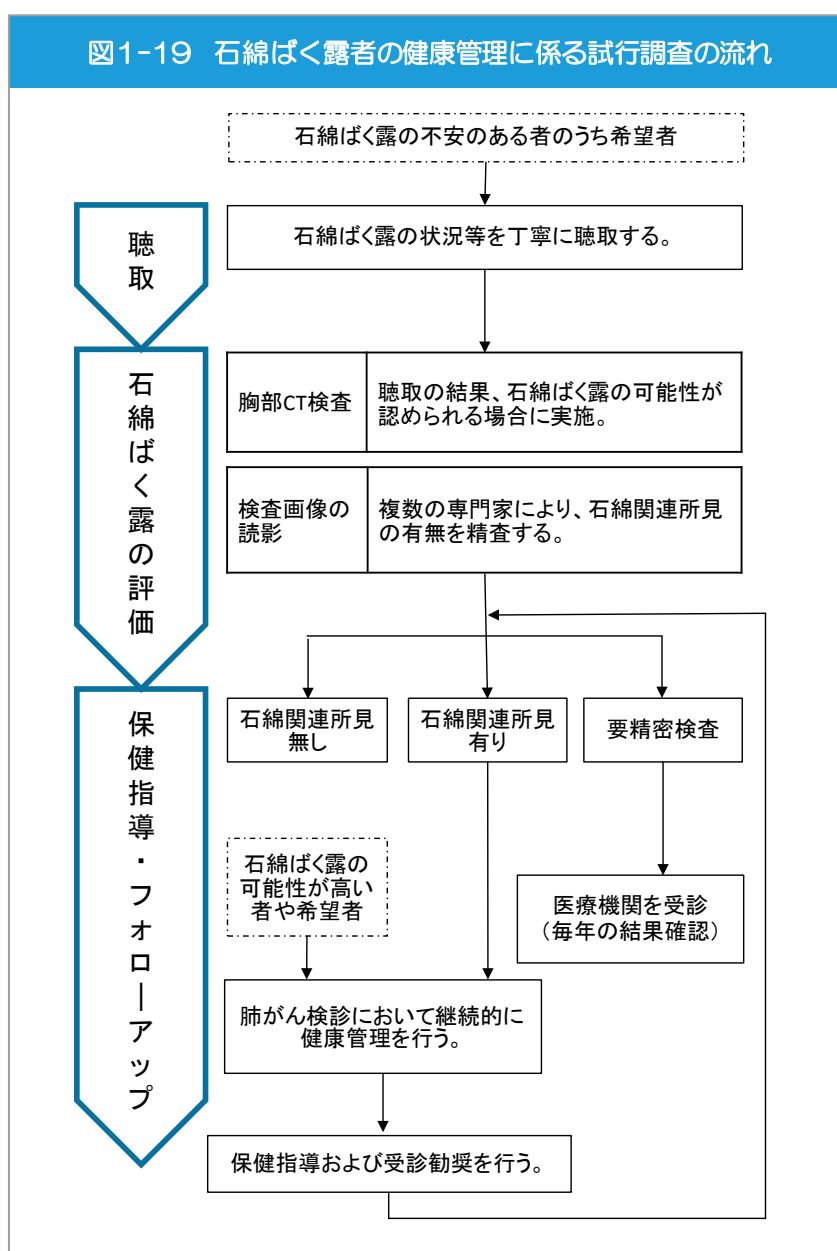
石綿は、耐火性、断熱性、防音性、絶縁性など多様な機能を有していることから、建材製品や工業製品に広く利用されてきました。その一方で、石綿を吸い込むと、数十年後に肺がんや中皮腫を発症する発がん性が問題となり、建築業や石綿製品工場などの労働者にみられる職業病と考えられてきました。現在では、原則として製造・使用等が禁止されていますが、県内にはかつて石綿を使用していた事業所があり、周辺住民に中皮腫の発症が報告されていることから、健康不

安の軽減と効果的な検診による早期発見と適切な受診を促すことが課題となっています。

県では環境省から委託を受けて、石綿ばく露歴や石綿関連疾患の健康リスクに関する実態調査を行うために、平成 19～21 年度（第 1 期）、平成 22～26 年度（第 2 期）に「石綿の健康リスク調査」を実施し、石綿ばく露の医学的所見の有無と健康影響との関係に関する知見を得ることができました。

平成 27 年度からは、石綿検診（仮称）の実施を見据えたモデル事業である「石綿ばく露者の健康管理に係る試行調査」を実施し、既存検診（肺がん検診等）との連携方法や検診頻度等の課題等について検討を行っています（図 1-19）。試行調査については、参加者を募る広報チラシに、石綿の人体への健康被害がおこる環境等を例示するとともに、対象者は、石綿を使用していた事業所や周辺住民に限定せず、石綿ばく露の不安のある希望者とし、問診によりその状況を聴き取っています。

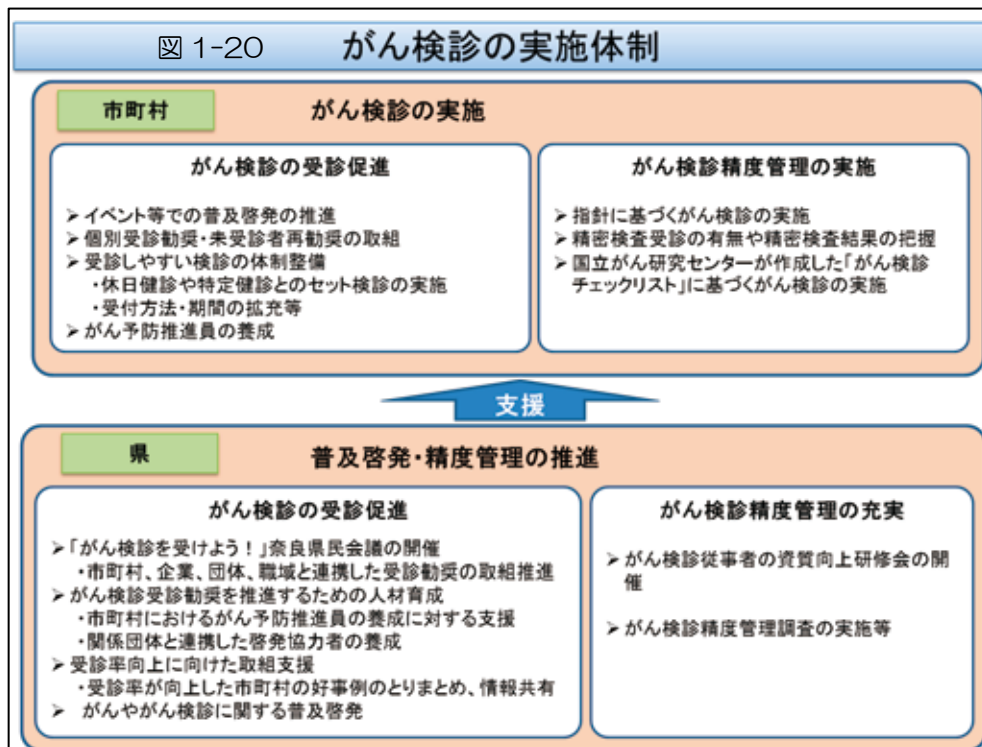
図1-19 石綿ばく露者の健康管理に係る試行調査の流れ



1 がん検診の受診促進

がん検診の実施主体は市町村であり、県は、市町村が精度管理のなされた質の高い検診が実施できるよう、また、多くの県民に検診の必要性が周知できるよう、支援します（図 1-20）。

県は、様々な機会を捉えたがん検診受診のための情報提供や、市町村や関係団体と連携した受診の働きかけ、受診しやすいがん検診体制の整備について、以下の6つの視点で取組を進めます。



① 「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の開催

がん検診受診の気運醸成のため、市町村、企業、関係団体が一体となり、がん検診受診率向上に取り組み、受診率 50%を目指します。

[主な取組]

- がん検診受診の重要性について普及啓発
- 奈良県民会議会員による街頭キャンペーンの実施

② 企業と連携した（奈良県がん検診応援団）がん検診受診啓発

顧客及び従業員等にごがん検診の受診を勧める等の取り組みを積極的に行う企業を「奈良県がん検診応援団」として募り、がん検診の受診促進を図ります。

[主な取組]

- 新規会員加入に向けた周知
- 企業との連携による効果的な受診勧奨ツールの作成及び啓発

③ がん検診受診勧奨を推進するための人材育成

地域で活動するボランティア等が、がんについての正しい知識を身につけ、知人、関係者にがん検診の必要性を草の根的に広げられるよう、人材を育成します。

[主な取組]

- 市町村におけるがん予防推進員の養成
- 企業・団体等と連携した人材育成

④ 市町村の受診率向上に向けた取組支援

受診率向上に効果のある資材を活用し、効果のある実施体制が整備できるよう市町村を支援します。

[主な取組]

- 個別受診勧奨・再勧奨の実施方法の検討・評価
- セット検診、休日検診などの検診実施体制の他、受診しやすい体制（申込方法が簡便、身近なところで受診できる、周囲からの呼びかけなど）の整備
- 受診率が向上した市町村の取組を好事例としてまとめ、他の市町村に紹介

⑤ 協会けんぽ（全国健康保険協会）と連携したがん検診の推進

協会けんぽ（全国健康保険協会）の被扶養者健診と市町村特定健診及びがん検診の同時実施を推進するため、協会けんぽと市町村の調整を行い、受診しやすい検（健）診の体制を整備します。

⑥ 県民だより、健康だより、インターネット、（県ホームページ・SNS 等）を活用した情報発信

がんについての正しい知識を周知し、一人でも多くの県民ががん検診を受診できるよう、様々なメディアを活用し、積極的な情報発信に取り組みます。

[主な取組]

- 県民だより、健康だより、インターネット、（県ホームページ・SNS 等）を活用した情報発信
- 保健事業を通じた普及啓発

2 がん検診精度管理の充実

「がん検診従事者の資質向上のための研修会の継続」「がん検診精度管理調査の実施・公表・指導」の2つの視点での取組を進めます。

① がん検診従事者の資質向上のための研修会の継続

精度の高いがん検診を県民に提供できるよう、がん検診従事者の資質向上のための研修会を継続して開催します。

[主な取組]

- 発見がん症例の追跡調査方法の検討、実施
- 症例検討会の開催
- 検査技術向上のための研修会の開催

② **がん検診精度管理調査の実施・公表・指導**

市町村が科学的根拠に基づくがん検診を継続して実施できるよう支援します。
市町村・検診機関及び県におけるがん検診の精度管理に取り組みます。

[主な取組]

- 市町村がん検診プロセス指標の評価
- 「がん検診チェックリスト」を用いた実態調査及び評価
- 集団検診実施機関を対象とした精度管理調査の実施
- 都道府県及び生活習慣病検診等管理指導協議会（各がん検診部会）の活動状況調査報告
- 個別検診実施機関及び検査担当医師を対象とした精度管理方法の検討

3 **石綿の健康影響に対する対策の促進**

「石綿ばく露者の健康管理の充実」の視点で取組を進めます。

① **石綿ばく露者の健康管理の充実**

環境省の委託事業等に協力することにより、石綿ばく露の可能性の高い県民に対し、精度の高い検診を実施するとともに県内での石綿ばく露による健康影響の公表に努めます。

また、石綿ばく露による健康不安をもつ県民には、保健師の面接・相談・保健指導を充実します。

さらに、県民への石綿ばく露による健康影響の正しい知識の普及啓発や検診従事者の技術の向上を促し、検診体制の充実を図っていきます。

[主な取組]

- ・受診後の有所見者に対する保健師による保健指導の充実
- ・新規受診者拡大のための対象者への広報
- ・保健所保健師による相談の実施

施策の目標、年次計画、実施主体

施策の柱	指標	現状値 (基準値)	目標値	主な取組	年次計画							関係機関				
					H30	H31	H32	H33	H34	H35	県	市町村	拠点 病院	医療 機関	その他	県民 患者 家族
1 がん検診の受診促進	「がん検診を受けよう！」奈良県民会議登録会員数	123 (H29)	増加	①「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の開催 ・広報紙、インターネットを活用した普及啓発 ・奈良県民会議会員による街頭キャンペーンの実施 ・保健事業を通じた普及啓発							◎	○			○	○
	奈良県がん検診応援団企業数	13 (H29)	実施、公表	②企業と連携した(奈良県がん検診応援団)がん検診受診啓発 ・新規会員加入に向けた周知 ・企業との連携による効果的な受診勧奨ツールの作成及び啓発							◎	○			○	○
	がん予防推進員を養成し、ともに受診促進に取り組む市町村数	10市町村 (H29)	増加	③がん検診受診勧奨を推進するための人材育成 ・市町村におけるがん予防推進員の養成 ・企業・団体等と連携した人材育成							◎	◎			○	○
	受診勧奨・再勧奨に取り組む市町村数	22市町村 (H29)	増加	④市町村の受診率向上に向けた取組支援 ・個別受診勧奨・再勧奨の実施方法の検討、評価 ・受診しやすい体制(申込方法が簡便、身近なところで受診できる、周囲からの呼びかけなど)の整備 ・受診率が向上した市町村の取組を好事例としてまとめ、他の市町村に紹介							◎	◎				
	セット検診を実施している市町村数 男性3がん 女性5がん	男性31市町村 女性16市町村 (H28)	増加	・受診しやすい市町村検診体制の整備 セット検診の実施							◎	◎				
	集団検診における休日(土日・祝日)、早朝又は夜間検診を実施している市町村数	胃 71.8% 大腸 66.7% 肺 71.8% 乳 53.8% 子宮 56.4% (H28)	増加	・受診しやすい市町村検診体制の整備 休日(土日・祝日)、早朝又は夜間検診の実施							◎	◎				
	協会けんぽの被扶養者検診と市町村特定健診及びがん検診の同時実施している市町村数	10市町村 (H29)	増加	⑤協会けんぽと連携したがん検診の推進							◎	○			○	○

施策の柱	指標	現状値 (基準値)	目標値	主な取組	年次計画						関係機関 ◎：実施主体、○：実施主体と連携・協力・支援				
					H30	H31	H32	H33	H34	H35	県	市町村	拠点 病院	医療 機関	市民 患者 家族 その他
2 がん検診精度管理の充実	がん検診従事研修会の参加者数(延べ)	530人 (H28)	増加	①がん検診従事者の資質向上のための研修会の継続 ・発見がん症例の追跡調査方法の検討、実施 ・症例検討会の開催 ・検査技術向上のための研修会の開催							◎	○		○	
											◎	◎		○	
2 がん検診精度管理の充実	市町村がん検診チェックリストを用いた実態調査において実施率が80%以上である市町村の数	24/38 5/16 22/37 10/25 24/38 22/32 22/32 15/33 22/33 17/36 (H28)	増加	②がん検診制度管理調査の実施・公表・指導 ・市町村がん検診プロセス指標の評価 ・「がん検診チェックリスト」の使用に関する実態調査の評価 ・集団検診実施機関を対象とした精度管理調査の実施 ・都道府県及び生活習慣病検診等管理指導協議会(各がん検診部会)の活動状況調査報告 ・個別検診実施機関及び検査担当医師を対象とした精度管理方法の検討							◎	◎		○	
3 石綿の健康影響に対する対策の促進	石綿ばく露による健康不安を持つ人の割合	81.7% (H28)	減少	①石綿ばく露者の健康管理の充実 ・受診後の有所見者に対する保健師による保健指導の充実 ・新規受診者拡大のための対象者への広報 ・保健所保健師による相談の実施							◎				○
															○
											◎	○			○
3 石綿の健康影響に対する対策の促進	石綿ばく露による健康不安を持つ人の割合	81.7% (H28)	減少	①石綿ばく露者の健康管理の充実 ・受診後の有所見者に対する保健師による保健指導の充実 ・新規受診者拡大のための対象者への広報 ・保健所保健師による相談の実施							◎				○
															○
											◎	○			○